



追加型投信 / 内外 / 株式

ファンド情報提供資料 / データ基準日: 2020年2月28日

モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン (為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし) 2020年初来の運用状況について

- 本資料はモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの資料・コメントを基に作成しています。
- モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり)を「為替ヘッジあり」およびモルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)を「為替ヘッジなし」、ならびにこれらを総称して「当ファンド」ということがあります。

平素より、「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年初来の運用状況と足下の下落についてご報告致します。
今後とも、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

年初来の運用状況

【年初来の市況動向】

昨年末と比較すると、先進国株式市場は下落しました。

年初から2月中旬にかけては、米中両国が通商協議における第1段階の合意に署名したことや米国の一部経済指標が市場予想を上回ったことなどから上昇しました。

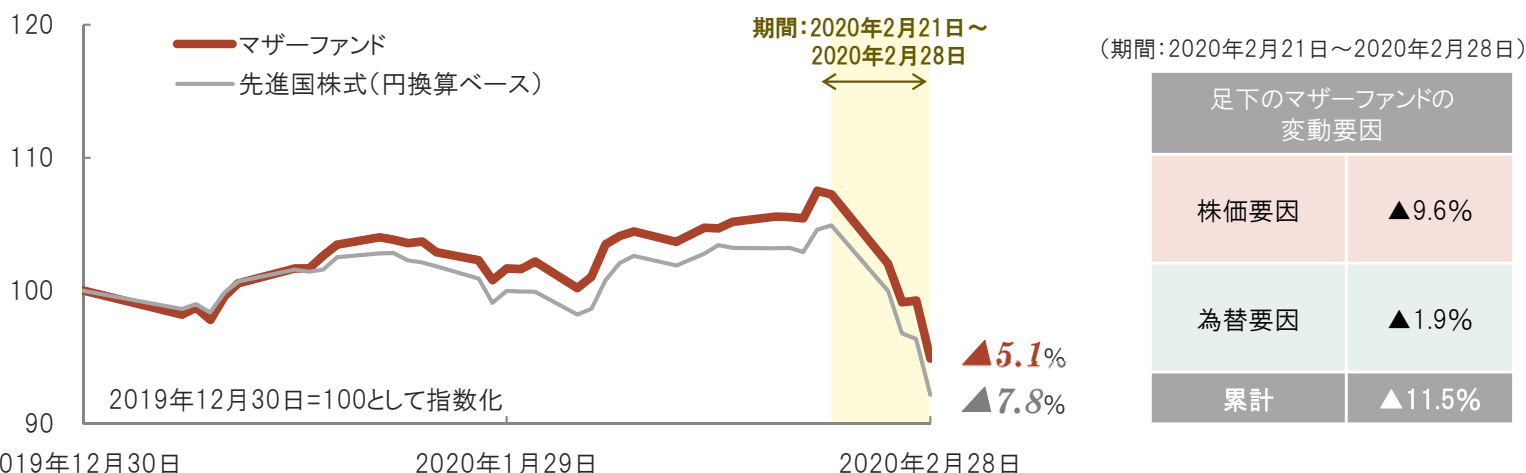
しかし、2月下旬以降は、中国を発端とした新型コロナウイルスが世界中に拡散し、経済面に需要と供給の両側面から与える影響への懸念が高まったことなどから先進国株式市場は下落しました。**(グラフ内の黄色部分)**

【当ファンドの運用状況について】

当ファンドの基準価額は、先進国株式市場が下落したことなどから昨年末と比較すると下落しました。組入銘柄ではレキットベンキーマー・グループやアクセンチュアの下落などがマイナスに影響しました。

モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン マザーファンド

(期間: 2019年12月30日～2020年2月28日)



• 先進国株式(円換算ベース)は、MSCI ワールド インデックス(税引き後配当込み米ドルベース)を三菱UFJ国際投信が円換算しています。なお同指数は、当ファンドおよびマザーファンドのベンチマークではありませんが、市況推移の参考として掲載しています。指数については、「本資料で使用している指数について」をご覧ください。• 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。• 要因分析の数値は、マザーファンドに与えた影響等をご理解いただくために、簡便的に試算した概算値であり、実際のマザーファンドの変化を正確に説明するものではありません。• 各要因の数値は、円未満を四捨五入して表示しているため、その合計額は実際の合計額と異なることがあります。

(出所)Bloomberg、FACTSETのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

今後の見通し

【投資環境の見通し】

当ファンドでは、先進国株式市場のバリュエーション(割安性)の高さを懸念していましたが、2月下旬以降の株価下落でこの懸念は幾分緩和されたと考えています。しかし、バリュエーションと企業業績の双方について不安視される状況は現時点でも変わっていないと認識しています。

新型コロナウイルスの感染拡大による影響は、短期的であると現時点では考えていますが、今後も先行き不透明な投資環境が続くことが想定されます。

【当ファンドの運用方針】

新型コロナウイルスにより、短期間の渡航禁止や旅行中止による人の動きが減少したことで、当ファンドが投資している一般消費財、生活必需品、パーソナルケア用品・美容品、アルコール類等の関連企業の決算への影響が見込まれます。

また、新型コロナウイルスの感染拡大は、中国の春節で人が多く動き、消費する時期と重なったことから、世界的に企業の上半期売りに一時的な影響を与えると考えていますが、当ファンドが保有する高クオリティ企業は業績トレンドが強いと考えているため、その後リカバリーすると期待しています。

新型コロナウイルスの感染拡大および、中国GDP(国内総生産)の縮小が間接的に長期の世界経済(または企業の生産性)に与える影響は注視する必要があります。しかし、当ファンドは、有力な無形資産や価格決定力、高い利益率を裏付けに企業価値を拡大し続けることが期待される「プレミアム企業」に投資するため、景気後退局面における下値抵抗があると考えており、世界経済環境の悪化による影響は限定的と考えています。

今回の株価下落でバリュエーションから売られ過ぎだと思える企業を新規銘柄として購入し、もしくは既に保有している銘柄の買い増しの機会を探ります。

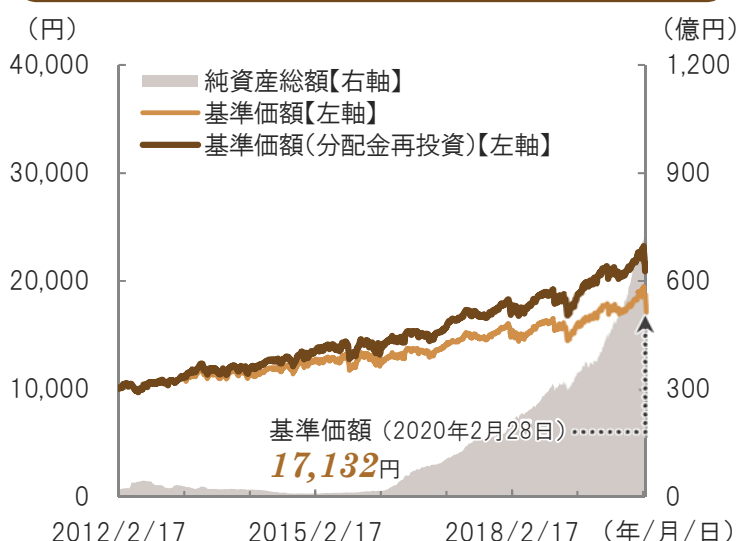
不透明な環境下、当ファンドでは「プレミアム企業」への投資を継続します。「プレミアム企業」の特長の1つとして、景気後退局面における下値抵抗があることが挙げられます。バリュエーションが高く不確実性が高まっている現在、下値抵抗の高い「プレミアム企業」に投資するのは合理的であると運用チームでは考えています。

※「プレミアム企業」とは、高いブランド力、有力な特許、強固な販売網など、競争優位の無形資産を裏付けに、持続的にフリー・キャッシュフローを増大させることが期待される企業を指します。

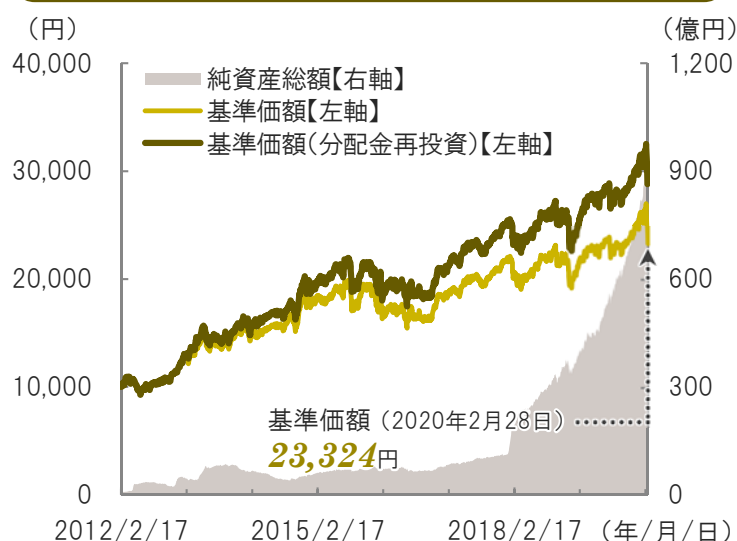
- 市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

基準価額等の推移 (期間:2012年2月17日(設定日)~2020年2月28日)

為替ヘッジあり



為替ヘッジなし



• 基準価額、基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。• 信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。• 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。